

絵画で想像をめぐらす異色の恐竜展 特別展「恐竜図鑑 — 失われた世界の想像／創造」

ナビゲーターに南沙良さん！音声ガイドにも初挑戦！

■2023年5月31日（水）～7月22日（土）、上野の森美術館にて開催される特別展「恐竜図鑑 — 失われた世界の想像／創造」（兵庫県立美術館にて23年3月スタート、その後上野の森美術館に巡回）の展覧会ナビゲーターに女優・南沙良さんが就任。無料音声ガイドのナレーションにも初挑戦することが決定しました。また、展示構成＆「リサとガスパール」とのコラボグッズなども公開。南さんの素敵なナレーションやキュートなグッズが展覧会を盛り上げます。

◇南沙良さんが音声ガイド収録に初挑戦

映画やドラマ、CMなどで活躍中の南沙良さんですが、展覧会の音声ガイドのナレーションを担当するのは初めて。都内で行われた収録では、「なかなか言いなれない言葉が多かったので苦労した面もありますが、作品の解説では自分自身も発見が多く、楽しんで収録できました」と話しました。恐竜絵画の名品・珍品が世界各国から集結する本展。自身も恐竜好きとして知られる南さんは「絵画だからこそ皮膚の質感などがしっかりと表現されていて、恐竜の姿を想像しやすい」と展覧会を楽しみにしていました。



《南沙良さんコメント》

恐竜ファンとして、イグアノドンなど、200年で恐竜像が変わっていく様子がとても興味深く楽しみな展覧会です。精密なものから、現代のポップな作品まで、さまざまなタイプの恐竜絵画が揃っているので、ぜひ自分のお気に入りの一作を見つけてみてください。

自分自身もワクワクした気持ちで収録した音声ガイド。みなさまも、ぜひワクワクしながら聞いていただければうれしいです。

《南沙良さんプロフィール》

生年月日:2002年6月11日

出身:東京都

映画『幼な子われらに生まれ』(2017)で女優デビュー。初主演映画『志乃ちゃんは自分の名前が言えない』(2018)で、報知映画賞、ブルーリボン賞 ほか、数々の映画賞を受賞し、その演技力が高く評価される。その他、映画『居眠り磐音』、『もみの家』、ドラマ『うつ病九段』(BS プレミアム)、『六畳間のピアノマン』



(NHK)、映画『太陽は動かない』、Netflix 映画『彼女』、日曜劇場『ドラゴン桜』(TBS テレビ系)など、出演作多数。2022 年は映画『女子高生に殺されたい』、山田孝之さんが監督を務め、南が主演を務める映画『沙良ちゃんの休日』、主演映画『この子は邪悪』、大河ドラマ『鎌倉殿の13人』(NHK)などに出演。

現在放送中の1月期連続ドラマ『女神の教室〜リーガル青春白書〜』(フジテレビ系)へレギュラー出演中、その他、2023年3月30日よりNetflixで全世界独占配信予定の『君に届け』での主演、2023年3月31日公開の『ダンジョンズ&ドラゴンズ』では初の吹き替えに挑戦。

Instagram:lespros_sara00 Twitter:lespros_sara

◀ 音声ガイドについて ▶

本展では南沙良さんによる音声ガイドを無料でお楽しみいただけます。

恐竜をはじめとする絶滅した古生物を、化石などの科学的証拠に基づいて復元する「パレオアート」。私たちが“恐竜”と聞いてその姿をすぐに想像できるのは、パレオアートのおかげといえるでしょう。19世紀の恐竜“発見”以来、化石などの研究とともに、パレオアートも進化を続けてきました。音声ガイドでは、本展に登場する作品の背景に迫りながら、古生物学者とパレオアーティストたちによる200年の足跡を南沙良さんとともにたどります。

※音声ガイドはご自身のスマートフォンから会場内のQRコードにアクセスしてお楽しみいただけます。最大30分ほどのガイドとなります。※本サービスはダウンロード型アプリではございません。※お手持ちのスマートフォンの世代や契約状況・通信、バッテリー残量などによってはご利用いただけない場合がございます。※無料サービスにつき、ご利用いただけなかった場合の入場料の返金など、一切の責任を負いかねますので予めご了承ください。

◇ 展示構成

美術館で開催される異色の恐竜展である本展では、恐竜をはじめとする古代生物を復元した「パレオアート」など約150点が世界各国から結集します。4章にわたる構成で、19世紀の恐竜“発見”以来、多様な姿で想像され、様々な形が創造されてきた恐竜というイメージの変遷をたどります。

【1章 恐竜誕生—黎明期の奇妙な怪物たち】

本展の冒頭を飾るのは、19世紀の恐竜“発見”から間もない時期に描かれた、パレオアート黎明期の作品群です。

地質学者ヘンリー・デ・ラ・ビーチの原画による《ドゥリア・アンティキオル（太古のドーセット）》は、イギリスの女性化石採集者、メアリー・アニングの功績をたたえるために制作された版画で、古生物の生態を復元した史上初の絵画のひとつと言われています。本展では、デ・ラ・ビーチの原画に基づくジョージ・シャーフの版画に加え、これを拡大したロバート・ファレンによる油彩画を出品します。



【1】ロバート・ファレン《ジュラ紀の海の生き物—ドゥリア・アンティキオル（太古のドーセット）》1850年頃 油彩・カンヴァス 190×268cm ケンブリッジ大学セジウィック地球科学博物館 © 2023. Sedgwick Museum of Earth Sciences, University of Cambridge. Reproduced with permission



【2章 古典的恐竜像の確立と大衆化】

19世紀末から20世紀前半にアメリカで活躍したパレオアートの歴史上最大の巨匠、チャールズ・R・ナイトと、20世紀中盤から後半にかけてチェコスロバキア（現チェコ共和国）で活動し国際的に高く評価されたズデニェク・ブリアン。本章では、この二大巨匠に加え、イギリスで活躍したイラストレーター、ニーヴ・パーカーの有名な恐竜画も展示します。

彼らの作品は、日本の図鑑などにも模写され、恐竜イメージの普及に大きな影響を与えました。かつての少年少女が胸おどらせ夢中で読んだ恐竜図鑑—そこに描かれた憧れの恐竜画のオリジナルが一堂に会します。

【2】ズデニェク・ブリアン《イグアノドン・ヘルニサルテンシス》1950年 油彩・カンヴァス 60 x 48cm モラヴィア博物館、ブルノ © Jiří Hochman - www.zdenekburian.com and Fornuft s.r.o. / Moravské zemské muzeum, Brno

【3章 日本の恐竜受容史】



【3】福沢一郎《爬虫類はびこる》1974年 アクリル・カンヴァス 181.8 x 227.3cm 富岡市立美術館・福沢一郎記念美術館

19世紀に欧米で成立した恐竜のイメージは、世紀末には日本にも移入されました。古生物学者・横山又次郎によって「恐竜」という訳語が作られて以来、科学雑誌や子供向けの漫画、コナン・ドイルの『失われた世界』（1912年）といった古典SFの翻訳など、恐竜を主題にした出版物が広く刊行されることになりました。これと並行して、恐竜の姿を模した玩具模型が多数制作され、今日では恐竜人気を支える中心的アイテムのひとつとなっています。

本展では、国内有数の恐竜アイテムの収集家である田村博氏のコレクションによって、我が国の文化史に登場する様々な恐竜を紹介します。また、恐竜をテーマにした数々の漫画を手掛けた所十三の代表作『DINO²（ディノ・ディノ）』の貴重な原画のほか、ファインアートの領域から福沢一郎、立石紘一などの作品を紹介します。

【4章 科学的知見によるイメージの再構築】

1960年代から70年代にかけて、「恐竜ルネッサンス」ともよばれる大きな変革もたらされます。「鈍重な生き物」から「活発に動く恒温動物」へと恐竜像が変化したことに伴い、恐竜画もさらなる進化を遂げ、新しい表現のアーティストが次々と登場します。

本展では、インディアナポリス子供博物館や福井県立恐竜博物館のコレクションから、ファンタジーアートの領域でもカルト的な人気を誇るアメリカのイラストレーター、ウィリアム・スタウト、パステルを駆使して太古の世界の光と影を精緻に表現するダグラス・ヘンダーソンなど、現代の恐竜画の旗手たちのバラエティ豊かな作品群が集結します。また、現代日本を代表するパレオアーティスト、小田隆の迫力ある作品も特集します。



【4】ダグラス・ヘンダーソン《ティラノサウルス》1992年 パステル・紙 36.8 x 68.6 cm インディアナポリス子供博物館（ランツェンドルフ・コレクション） Courtesy of The Children's Museum of Indianapolis © Douglas Henderson

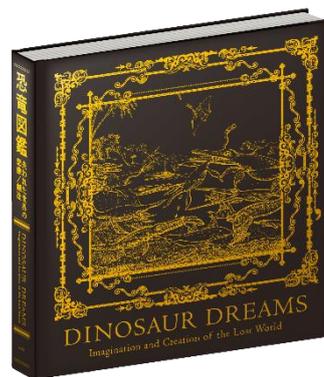
◇展覧会オリジナルグッズ

展覧会公式図録

全出品作品の図版をカラーで掲載！豊富な拡大図で恐竜たちが華麗によみがえります。恐竜の“発見”から現代まで、^{パレオアート}恐竜絵画200年の変遷を網羅。読みごたえ抜群のエッセイも多数収録。表紙の金箔が豪華な、完全版“恐竜図鑑”です。

全 264 ページ 上製、A4 変形 (220mm×210mm)

3,000 円 (税込)



リサとガスパールコラボグッズ

リサとガスパール、そして彼らの家族の日常を描いた、フランスの大人気絵本『リサとガスパール』とコラボした、本展限定のキュートなグッズを販売予定です。

★『リサとガスパール』★

ほわほわの白いボディにつぶらな黒目、赤いマフラーがお似合いなのが、リサ。

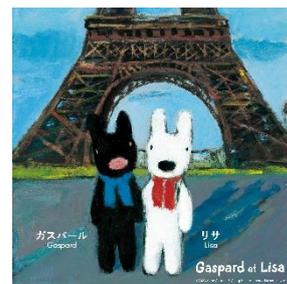
黒いボディに青いマフラー、赤いお鼻にくりくり瞳が、ガスパール。

リサとガスパールは、うさぎでもない、いぬでもない、キュートなパリの住人。

日本では現在まで計 40 タイトルの絵本が発売、累計部数は約 200 万部以上に及びます。

お話とブックデザイン担当のアン・グットマンと作画担当のゲオルグ・ハレンスレーベン夫妻によって生み出された独自の世界観と温かみのある絵は多くの人を魅了しています。

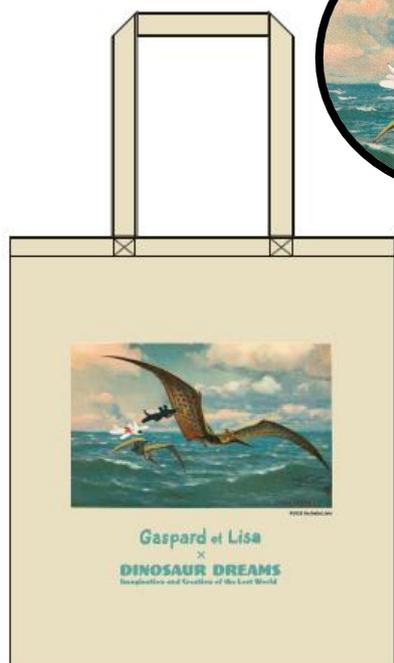
©2023 Anne Gutman & Georg Hallensleben / Hachette Livre



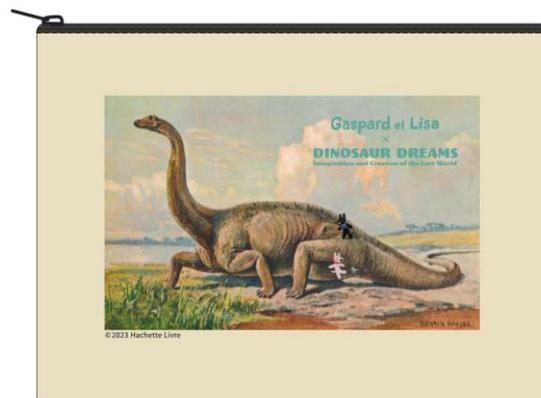
拡大図



拡大図



トートバッグ (税込 ¥ 2,640)



ポーチ (税込 ¥ 1,980)

★その他、最初期に発見された恐竜、「イグアノドン」の復元の過程をモチーフにした本展オリジナルキャラ「イグアノドン3きょうだい」のグッズも。もちろん王道の恐竜グッズもご用意。お楽しみに！

★「イグアノドン3きょうだい」★

それぞれ違った姿だけど、みんなおんなじイグアノドン！
恐竜の中でも特に大きく姿が変わってきたイグアノドンのそれぞれの時代の特徴をあらわしている展覧会オリジナルキャラクターです。



Tシャツ（キッズ 110・130 サイズ／バナナ・アッシュグレー 各税込み ¥3,000、大人用 S・M・L サイズ／アッシュグレー 各税込み ¥3,500）



アクリルキーホルダー（税込 ¥990）



チョコランチ（税込 ¥1,080）



※画像はイメージです。実際の商品とは異なる場合があります

※各商品とも売り切れまたは完売の可能性あります。また予告なく販売条件などを設定する場合があります。あらかじめご了承ください

◇開催概要(東京展)

展覧会名：特別展「恐竜図鑑—失われた世界の想像／創造」

（英語表記）Dinosaur Dreams: Imagination and Creation of the Lost World

会場：上野の森美術館（東京都台東区上野公園 1-2）

会期：2023年5月31日（水）～7月22日（土）

主催：産経新聞社、フジテレビジョン、上野の森美術館

協賛：DNP 大日本印刷、JR 東日本

企画協力：小田隆（画家・京都精華大学教授）、徳川広和（古生物造形作家・株式会社 ACTOW 代表）、田村博（ジャズピアニスト・恐竜グッズ収集家）、エリック・ビュフトー（古生物学者・フランス国立科学研究センター 名誉研究部長）

制作協力：ウイステリアート

展覧会公式サイト：<https://kyoryu-zukan.jp/>

展覧会公式 Twitter：https://twitter.com/kyoryu_zukan (@kyoryu_zukan)

■兵庫展は 2023 年 3 月 4 日（土）～5 月 14 日（日）兵庫県立美術館にて開催

※南沙良さんのオフィシャル画像をご用意しております。ご希望の方は下記までご連絡ください。

【本展に関する記事・報道のお問い合わせ】

特別展 恐竜図鑑広報事務局（株式会社 OHANA 内）担当：妹尾・細川・山本
〒102-0074 東京都千代田区九段南 1-5-6 りそな九段ビル 5F
TEL：03-6869-7881 Fax：03-6869-7801
Email：kyoryu-zukan@ohanapr.co.jp